

都市再生整備計画 事後評価シート

城下町高田地区
(地方再生コンパクトシティ)

令和3年3月

新潟県 上越市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	新潟県	市町村名	上越市	地区名	城下町高田地区(地方再生コンパクトシティ)		面積	580ha
交付期間	平成30年度～令和2年度	事後評価実施時期	令和2年度	交付対象事業費	457.9百万円	国費率	0.473	
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業 (参考)	基幹事業	事業名 ○公園:高田公園 ○地域生活基盤施設:広場(100年映画館周辺交流広場) ○地域生活基盤施設:情報板(回遊サイン整備) ○既存建造物活用事業:高次都市施設(旧今井染物屋) ○既存建造物活用事業(町家交流館高田小町)					
		提案事業						
		関連事業	○回遊サイン計画策定 ○リノベーションまちづくり事業 ○高田駅南駐車場開発事業スキーム検討 ○100年映画館のあるまち誘客・回遊強化事業 ○上越市百年料亭のあるまち誘客・回遊強化事業補助 ○ビジネスタウン推進事業 ○まちなか居住推進事業 ○旧師団長官舎改修事業					
	当初計画から削除した事業 (参考)	基幹事業	事業名		削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響	
		提案事業	○なし					
		関連事業	○なし					
	新たに追加した事業 (参考)	基幹事業	○なし					
		提案事業	○事業活用調査:事業効果分析調査		事業成果の検証や今後の持続的なまちづくりに向けた更なる事業展開を検討するため追加。また、国の制度改革により、社会資本総合整備計画の効果促進事業から移行		影響なし	
			○まちづくり活動支援事業:日本三大夜桜桜守育成事業		国の制度改革により、社会資本総合整備計画の効果促進事業から移行		影響なし	
	交付期間の変更	当初	平成30年度～令和2年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響				
変更		なし						

	指標		従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期	
		単位	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値							
2)都市再生整備計画に記載した目標を 定量化する指標 の達成状況	指標1	高田区の人口の社会減 の解消数	人/年	0	H27	48	R2	166 (H30)	244 (R2)	○	あり — なし —	高田公園整備事業における広 場・内堀・園路等の整備や旧今井 染物屋体験・交流拠点整備事業 の推進など、日常の憩いやコミュ ニケーションの場としての住環境 の充実に資する取組を行うとともに 、100年映画館周辺交流広場 の整備や旧師団長官舎改修事業 の推進、リノベーションまちづくり 事業など、城下町の歴史・文化を いかした取組の積極的な情報発 信などを行うことで、市内外へま ちの魅力のPRを図ったことなど が、目標値の達成に作用したも のと考えられる。	—
	指標2	新たに入居した空き家、 空き店舗の数	件/年	0	H27	10	R2	7 (H30)	13 (R2)	○	あり — なし —	100年映画館周辺交流広場や高 田小町駐車場の整備など、まち 歩きの拠点エリアとしての魅力向 上を図るとともに、リノベーション まちづくり事業の推進や100年映 画館及び百年料亭をいかした誘 客・回遊強化事業など、歴史ある 街並みや建物、文化をいかした 誘客に取り組むことで、街なか における日常の賑わい創出を図 ったことなどが、目標値の達成に作 用したのと考えられる。	—
	指標3	高田区の街なかの観光 客入込数	人/年	228,971	H27	428,200	R2	280,281 (H30)	242,103 (R2)	×	あり — なし ●	回遊サイン計画の策定及び回遊 サイン整備事業の推進など、来 訪者の街なか回遊と消費活動の 促進を図るとともに、歴史・文化 の魅力発信を推進したものの、多 数の観光客を見込んでいた屋外 の大規模集客イベントが台風等 の影響により見込んでいた入込 数を下回ったことなどから、目標 値を下回った。	新型コロナウイルスの感染拡大 の影響により、各種イベント の実施方法や人の動きに変化 が起きており、過去との比較に おいて数値の減少が予測され る。コロナ禍の影響の継続が 見込まれる来年度以降の数値 と、コロナ禍の影響を考慮して いない目標値や過去の実績値 との比較は、事業効果の正確 な比較とはならず、また、コロ ナ禍の影響を排除した予測も 困難であることから、来年度以 降のフォローアップを目的とし た計測は行わない。

	指標		従前値		目標値		数値		目標	1年以内の	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期	
		単位		基準年度		目標年度	モニタリング	評価値	達成度※1	達成見込み			
3) その他の数値指標 (当初設定した数値 目標以外の指標)に よる効果発現状況	その他の 数値指標1	高田区の世帯数	世帯/年	12,815	H27			12,814 (H30)	12,848 (R1)			高田区の人口は社会減の傾向にある中、世帯数は多少の増減はあるもののほぼ横ばいで推移しており、本事業実施以前の平成27年度と比較すると、世帯数は増加している。居住地として一定程度選択されていることが考えられ、事業の効果が発現していると言える。	-
	その他の 数値指標2	高田小町の一時利用者数	人/年	8,895	H27			14,690 (H30)	13,859 (R1)			まち歩きの見学エリアにある高田小町の一時利用者数(※)が増加傾向にある。高田小町周辺のエリアとしての魅力が向上していると考えられ、事業の効果が発現していると言える。 ※貸館利用者を除いた来館者数	-

4) 定性的な効果発現状況

- ・高田の民間事業者が、本事業で整備している回遊サインと同様の意匠等に基づくデザインのサインを設置するなど、まちのデザインの統一や回遊促進に対する地域の意識が高まっている。
- ・高田の一部地域の住民が主体的に景観色彩ガイドラインを作成し、独自ルールとしての合意を図り、建物の新築・改築の際には外壁や屋根、雁木の色をガイドラインに沿ったものとするための運用を開始している。
- ・地域の若手人材により、高田の空き町家等のリノベーションを推進する民間団体が新たに発足され、町家や雁木等の城下町の歴史・文化をいかし、賑わいを創出しようとする取組が民間ベースで広がっている。
- ・高田の空き町家等をリノベーションした物件を紹介するパンフレットの作成に携わった市内の若手人材が、その後もまちづくりの取組に関わり続けており、まちづくりの担い手育成につながっている。
- ・民間団体によって企画された空き家見学会をきっかけに、空き町家の活用を希望する相談を受ける機会が生まれており、歴史的な街並みや町家に対する市民等の関心が高まっている。
- ・高田で活動する民間団体等へのアンケート結果では、本事業開始以前(概ね5年前を想定)と比較して、約6割の人が、市民や市外の人の高田のまちへの関心の高まりを感じていると回答しており、事業による効果の発現を確認している。また、約7割の人が、町家に対する関心が高まっていると回答しており、町家の活用に対する機運が高まっている。
- ・高田で活動する民間団体等へのヒアリング結果では、本事業開始以前(概ね5年前を想定)と比較して、街なかを回遊する来訪者の増加を実感するという意見があり、街なか回遊の促進の効果の発現を確認している。また、若者の街なかへの定住促進やまちづくりの担い手育成が今後の課題であるという意見があり、今後のまちづくりに対する関心の高まりが表れている。

	実施内容	実施状況		今後の対応方針等	
5) 実施過程の評価	モニタリング	市議会総務常任委員会における地方創生の取組状況の報告にあわせて実施	都市再生整備計画に記載し、実施できた	●	引き続き、令和3年市議会9月定例会において事業の効果検証を行う。
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	●	
	住民参加プロセス	歴史的建築物(旧今井染物屋及び旧師団長官舎)の活用方法の検討のため、サウンディング型市場調査を実施	都市再生整備計画に記載し、実施できた	●	公共施設整備等の検討にあたり、必要に応じて市場調査やワークショップ等を実施し、民間ニーズの把握に努めていく。
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	●	
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		
			都市再生整備計画に記載し、実施できた	●	
		100年映画館周辺交流広場の整備及び回遊サイン計画の作成に関するワークショップの開催	都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	●	
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		
			都市再生整備計画に記載し、実施できた	●	
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		
事業の取組効果等を検証する民間アンケートの実施	都市再生整備計画に記載し、実施できた	●			
	都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	●			
	都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				
	都市再生整備計画に記載し、実施できた	●			
事業の取組効果等を検証する民間ヒアリングの実施	都市再生整備計画に記載し、実施できた	●			
	都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	●			
	都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				
	都市再生整備計画に記載し、実施できた	●			
持続的なまちづくり体制の構築	「城下町高田まちなっと」の連携強化	都市再生整備計画に記載し、実施できた	●	市民がまちづくりに参加しやすい環境整備を進めるとともに、市民が相談しやすい行政組織となるように努めていく。	
		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	●		
	リノベーションまちづくり団体の組成	都市再生整備計画に記載し、実施できた	●		
		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	●		

様式2-2 地区の概要

城下町高田地区(新潟県上越市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
目標1: 豊かな市民生活の享受や街なかの魅力向上等によるまちなか居住の促進 目標2: 歴史・文化をいかした回遊促進による交流人口増加	高田区の人口の社会減の解消数	単位: 人/年	0	H27	48	R2	244	R2
	新たに入居した空き家、空き店舗の数	単位: 件/年	0	H27	10	R2	13	R2
	高田区の街なかの観光客入込数	単位: 人/年	228,971	H27	428,200	R2	242,103	R2

■地域生活基盤施設 情報板(回遊サイン整備)

□回遊サイン計画策定



回遊サイン整備



百年料亭宇喜世

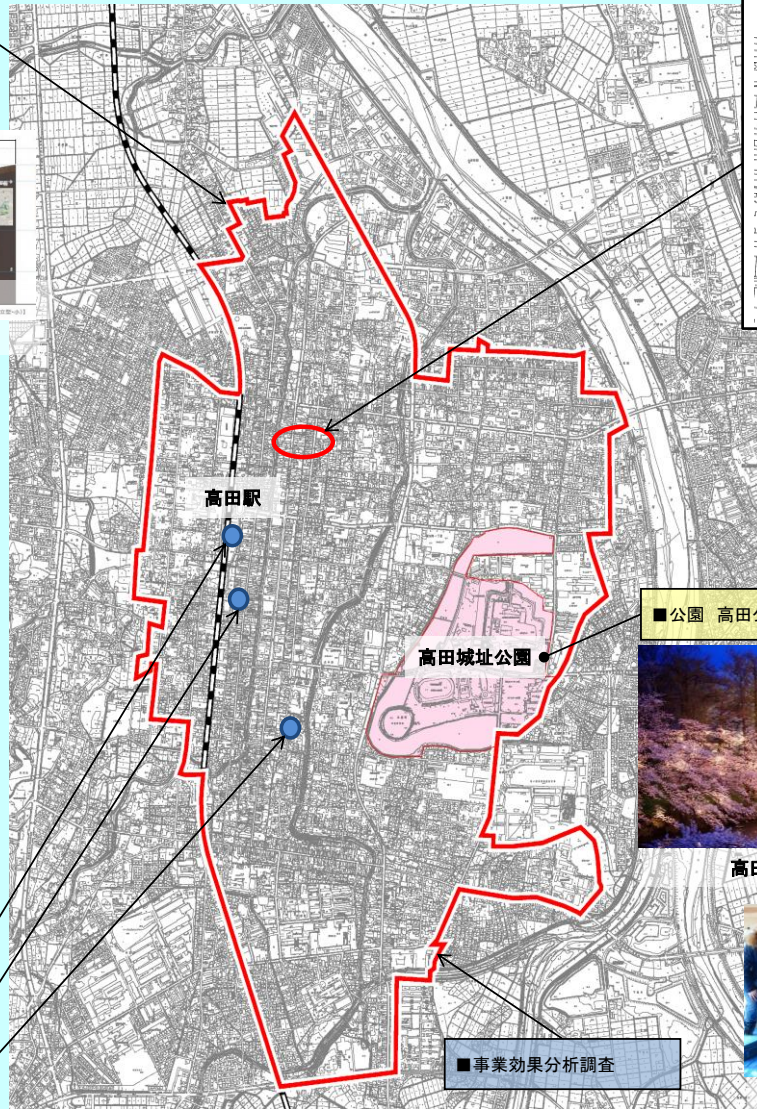


旧師団長官舎

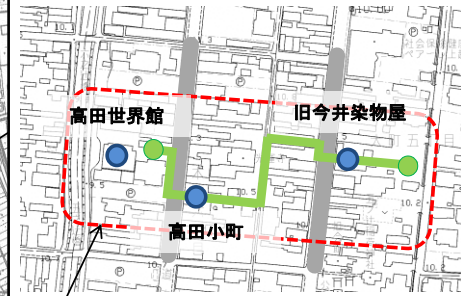
□高田駅南駐車場開発事業スキーム検討

□上越市百年料亭のあるまち誘客・回遊強化事業補助

□旧師団長官舎改修事業



まち歩きの見点エリア



- 地域生活基盤施設
広場(100年映画館周辺交流広場)
- 既存建造物活用事業(高次都市施設)
町家交流館高田小町駐車場
- 既存建造物活用事業(高次都市施設)
旧今井染物屋

□100年映画館のあるまち誘客・回遊強化事業

■公園 高田公園整備



高田公園整備

■日本三大夜桜桜守育成事業



桜守育成



100年映画館周辺交流広場



高田小町駐車場



旧今井染物屋

- リノベーションまちづくり事業
- ビジネスタウン推進事業
- まちなか居住推進事業

凡例

- 基幹事業
- 提案事業
- 関連事業



リノベーションまちづくり事業

<p>まちの課題の変化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・リノベーションまちづくり事業において町家を魅力の一つと捉え、空き店舗の解消に向けた取組を行ったほか、100年映画館周辺交流広場の整備や百年料亭をいかした誘客・回遊の促進、旧今井染物屋体験・交流拠点整備事業の推進など、歴史的市街地であるゆえの資産を活用したまちの魅力向上の取組が、課題であった当地区の人口の社会減の抑制や空き家・空き店舗の利活用につながっている。一方で、数値目標の達成状況の分析経過から、当地区の人口の社会減は、若者世代の市外転出が大きな要因の一つであることが分かり、これは当市全体の人口減少の要因と重なっている。今後は多様な世代におけるまちへの理解や愛着の向上を図り、若者世代の転出を抑制することが課題である。 ・リノベーションまちづくり事業や旧師団長官舎改修事業の推進、100年映画館及び百年料亭をいかした誘客・回遊強化の取組など、城下町に古くからある建築物を活用することによる文化施設や商業施設などの都市機能の集積を図ったほか、ビジネスタウン推進事業による新たな雇用の創出に向けた取組や、高田公園整備事業や100年映画館周辺交流広場整備事業による充実した余暇を過ごすための環境整備など、歴史・文化をいかしたまちの魅力向上を図った。 ・100年映画館及び百年料亭をいかした誘客・回遊強化の取組やリノベーションまちづくり事業(飲食店等の紹介)、旧師団長官舎改修事業(民間レストランとしての活用)、100年映画館周辺交流広場整備事業(消費を伴うイベント会場)の推進により、歴史的建築物や町家等の歴史的・文化的資産を活用し、城下町の魅力向上に取り組むことで、来訪者の増加を図るとともに、消費機会の拡大を図った。また、回遊サイン計画の策定や回遊サインの整備において、まち歩きのメインルートに商店街を組み込むなど消費を促す仕組みを取り入れることにより、課題であった街なか回遊と消費活動の促進を図ることができた。 ・城下町の歴史・文化をいかした施設整備や関連するソフト事業を集中的に展開することにより、高田の街なかのエリアとしての魅力向上と情報発信を図ることができ、課題であった街なかの日常的な来訪者の増加につながっている。一方で、市民が主体となり、今後も継続的にまちの魅力向上を図っていくためには、まちづくり団体の活動の継続や地域コミュニティの維持、次世代のまちの担い手の発掘・育成が課題である。
<p>今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・街なか居住の推進を図るため、狭隘道路の改善等の良好な住環境の整備に向けた事業化についての検討や、数軒の若者世帯が同時期に移り住めるような規模の一体的な宅地整備等、転入世帯が既存コミュニティに入るときのハードルを下げ、新たな暮らしを始めやすくする住環境の整備を図るとともに、町家を身近な住まいとして受け入れられる取組等、歴史的な街並みをいかした住環境の整備を促進する。 ・交流人口の拡大を図るため、高田城址公園や高田小町周辺の交流施設等の活用促進や、歴史・文化資産の魅力の深掘り、回遊ルートや街なかの移手段の検討及び情報発信等を図るとともに、市民の日常の買い物の場としての商店街の形成や市内各地から高田へのアクセスの向上等の市民を対象とした域内交流の促進に取り組む。 ・地域愛着の醸成を図るため、市民を対象とした域内交流の促進や高田区と市内各地の住民双方の交流・理解醸成を図るとともに、多様な世代が地域固有の魅力を知ることで、まちへの愛着を高める機会を創出する。 ・人や組織の活性化の促進するため、数多く存在するまちづくり団体等の連携促進や、若者がまちに関わる取組の推進、多様な世代、多様な地域のつながりづくりの促進に取り組む。

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値	●		指標1:高田区の人口の社会減の解消数 46人/年	指標1:高田区の人口の社会減の解消数 48人/年	関連事業に係る目標値の上方修正に伴い、同様の目標値を設定している 本計画においても同様に変更したもの
			指標3:高田区の街なかの観光客入込数 428,000人/年	指標3:高田区の街なかの観光客入込数 428,200人/年	
D. その他()		●			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
公園	高田公園	189.00	広場整備 A=10,000㎡ 内堀整備 L=270m 園路整備 L=760m	161.10	広場整備 A=10,000㎡ 内堀整備 L=270m 園路整備 L=760m 植栽工 N=30本	第1回変更(平成30年7月)で、「高田公園桜長寿命化計画(第二期計画)」に基づき桜の植樹を追加 第5回変更(令和2年12月)で、事業費の精査等に基づき減額	影響なし		●
地域生活基盤施設	広場(100年映画館周辺交流広場)	33.00	広場 A=330㎡	34.80	広場 A=330㎡	第5回変更(令和2年12月)で、事業費の過年度実績に基づき増額	影響なし	●	
地域生活基盤施設	情報板(回遊サイン整備)	20.00	既設サイン改修 新規サイン整備	17.60	既設サイン改修 新規サイン整備	第5回変更(令和2年12月)で、事業費の精査等に基づき減額	影響なし		●
既存建造物活用事業	高次都市施設(旧今井染物屋)	193.00	体験・交流施設 A=441㎡	187.40	体験・交流施設 A=441㎡	第5回変更(令和2年12月)で、事業費の精査等に基づき減額	影響なし		●
既存建造物活用事業	高次都市施設(町家交流館高田小町)	40.00	高田小町駐車場 A=650㎡	45.00	高田小町駐車場 A=698㎡	第3回変更(令和2年3月)で、用地取得費及び安全施設の整備内容の精査に基づき増額 第5回変更(令和2年12月)で、事業費の精査等に基づき減額	影響なし	●	

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造支援事業									
事業活用調査	調査(事業効果分析調査)	—	なし	2.70	事業効果分析調査	社会資本総合整備計画の第2回変更(平成30年12月)で、事業成果の検証や今後の持続的なまちづくりの検討を行うために新規事業として追加 都市再生整備計画の第3回変更(令和2年3月)で、国の制度改革に伴い社会資本総合整備計画から移行	影響なし		●
まちづくり活動推進事業	調査・施設整備(日本三大夜桜桜守育成事業)	—	なし	9.30	桜技術指導(専門アドバイザー) 桜守報酬 高所剪定 等	都市再生整備計画の第3回変更(令和2年3月)で、国の制度改革に伴い社会資本総合整備計画から移行	影響なし		●

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

(参考)関連事業								
事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更計画	当初計画	最終変更計画		
回遊サイン計画策定			2	2	H30	H30	平成30年度に終了し、翌年度から整備している情報板(回遊サイン)の意匠やデザイン等の基本計画となっている。	
リノベーションまちづくり事業			10	8	H30～R2	H30～R2	令和2年度に終了予定であり、地域の若者を中心とした民間まちづくり団体が発足し、活動している。	
高田駅南駐車場開発事業スキーム検討		高田駅南駐車場	-	-	H30～R2	H30～R2	令和2年度に終了予定であり、基本構想の作成に向けた調整等を図っている。	
100年映画館のあるまち誘客・回遊強化事業			3	15	H28～R2	H28～R2	令和2年度に終了予定であり、基幹事業と一体的に取り組むことで、交流人口の増加や街なか回遊を促進している。	
上越市百年料亭のあるまち誘客・回遊強化事業補助			2	5	H28～R2	H28～H30	平成30年度に終了し、百年料亭ネットワークの設立を支援したことで、当地域の歴史ある料亭の全国への魅力発信に寄与した。	
ビジネスタウン推進事業			9	12	H28～R2	H28～R2	令和2年度に終了予定であり、サテライトオフィスの誘致等、企業誘致を図っている。	
まちなか居住推進事業			6	8	H28～R2	H28～R2	令和2年度に終了予定であり、地域住民との意見交換やモデル事業の検討等、まちなか居住を推進している。	
旧師団長官舎改修事業		旧師団長官舎	96	96	H30～R2	H30～R2	令和2年度に終了予定であり、民間事業者によるレストランとしての活用に向けた施設整備を図っている。	

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	単位	(参考)※1 計画以前の値 (ア)	従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無		
				基準年度	基準年度	基準年度	目標年度	モニタリング	事後評価	数値	評価	結果	あり	なし	
指標1	高田区の人口の社会減の解消数	人/年	H22～H26の平均値-192人/年からの削減数を市が住民基本台帳のデータから集計		0	H27	48	R2	モニタリング	H30	166	モニタリング	○		
									事後評価	確定見込み	●	244	事後評価		
指標2	新たに入居した空き家、空き店舗の数	件/年	空き家、空き店舗となっていた建築物が新たに入居・開店した数を市が随時情報収集し集計		0	H27	10	R2	モニタリング	H30	7	モニタリング	△		
									事後評価	確定見込み	●	13	事後評価		
指標3	高田区の街なかの観光客入込数	人/年	観光施設及び観光イベントの集客数を市が集計		228,971	H27	428,200	R2	モニタリング	H30	280,281	モニタリング	×		●
									事後評価	確定見込み	●	242,103	事後評価		

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	高田公園整備事業における広場・内堀・園路等の整備や旧今井染物屋体験・交流拠点整備事業の推進など、日常の憩いやコミュニケーションの場としての住環境の充実に資する取組を行うとともに、100年映画館周辺交流広場の整備や旧師団長官舎改修事業の推進、リノベーションまちづくり事業など、城下町の歴史・文化をいかした取組の積極的な情報発信などを行うことで、市内外へまちの魅力のPRを図ったことなどが、目標値の達成につながっている。	
指標2	100年映画館周辺交流広場や高田小町駐車場の整備など、まち歩き拠点エリアとしての魅力向上を図るとともに、リノベーションまちづくり事業の推進や100年映画館及び百年料亭をいかした誘客・回遊強化事業など、歴史ある街並みや建物、文化をいかした誘客に取り組むことで、街なかにおける日常の賑わい創出を図ったことなどが、目標値の達成につながっている。	
指標3	100年映画館周辺交流広場整備事業や回遊サイン整備事業など、歴史・文化をいかしたまちの魅力向上の取組を推進するとともに、100年映画館及び百年料亭をいかした誘客・回遊強化事業などにより、来訪者の街なか回遊を図ることができた。一方で、多数の観光客を見込んでいた屋外の大規模集客イベントが台風等の影響により見込んでいた入込数を下回ったことなどから、目標値を下回った。	

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方(時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値(ア)		従前値(イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項(指標計測上の問題点、課題等)
				基準年度		基準年度					
その他の数値指標1	高田区の世帯数	世帯/年	市が住民基本台帳のデータから集計		12,815	H27	モニタリング	H30	12,814	高田区の世帯数の推移は、城下町高田の居住地としての魅力向上の状況を表すと考えられるため、本事業による効果発現状況を計る参考指標として取り上げる。	指標1及び指標2を補完して、街なかの魅力向上を説明する。
							事後評価	確定 ● 見込み	12,848		
その他の数値指標2	高田小町の一時利用者数	人/年	市が高田小町来館者実績報告書から集計		8,895	H27	モニタリング	H30	14,690	歴史的建築物であり、街なか回遊の拠点機能を併せ持つ高田小町の一時利用者数は、城下町高田の交流人口の増加状況を表すと考えられるため、本事業による効果発現状況を計る参考指標として取り上げる。	指標3を補完して、街なかの交流人口の増加を説明する。
							事後評価	確定 ● 見込み	13,859		
							モニタリング				
							事後評価	確定 見込み			

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

・高田の民間事業者が、本事業で整備している回遊サインと同様の意匠等に基づくデザインのサインを設置するなど、まちのデザインの統一や回遊促進に対する地域の意識が高まっている。

・高田の一部地域の住民が主体的に景観色彩ガイドラインを作成し、独自ルールとしての合意を図り、建物の新築・改築の際には外壁や屋根、雁木の色をガイドラインに沿ったものとするための運用を開始している。

・地域の若手人材により、高田の空き町家等のリノベーションを推進する民間団体が新たに発足され、町家や雁木等の城下町の歴史・文化をいかし、賑わいを創出しようとする取組が民間ベースで広がっている。

・高田の空き町家等をリノベーションした物件を紹介するパンフレットの作成に携わった市内の若手人材が、その後もまちづくりの取組に関わり続けており、まちづくりの担い手育成等につながっている。

・民間団体によって企画された空き家見学会をきっかけに、空き町家の活用を希望する相談を受ける機会が生まれており、歴史的な街並みや町家に対する市民等の関心が高まっている。

・高田で活動する民間団体等へのアンケート結果では、本事業開始以前(概ね5年前を想定)と比較して、約6割の人が、市民や市外の人の高田のまちへの関心の高まりを感じていると回答しており、事業による効果の発現を確認している。また、約7割の人が、町家に対する関心が高まっていると回答しており、町家の活用に対する機運が高まっている。

・高田で活動する民間団体等へのヒアリング結果では、本事業開始以前(概ね5年前を想定)と比較して、街なかを回遊する来訪者の増加を実感するという意見があり、街なか回遊の促進の効果の発現を確認している。また、若者の街なかへの定住促進やまちづくりの担い手育成が今後の課題であるという意見があり、今後のまちづくりに対する関心の高まりが表れている。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等	
市議会総務常任委員会における地方創生の取組状況の報告にあわせて実施	予定どおり実施した	【実施頻度】 3回 【実施時期】 平成30年9月議会、令和元年9月議会、令和2年9月議会 【実施結果】 数値目標に対する進捗状況と成果を示し、意見を聞くことにより、事業の実施方法等を検証した。	引き続き、令和3年市議会9月定例会において事業の効果検証を行う。	
	予定はなかったが実施した			●
	予定したが実施できなかった(理由)			

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等	
歴史的建築物(旧今井染物屋及び旧師団長官舎)の活用方法の検討のため、サウンディング型市場調査を実施	予定どおり実施した	【実施頻度】 1回 【実施時期】 平成30年7月～10月 【実施結果】 民間事業者等との対話により市場ニーズや活用アイデア等を調査し、事業の実現可能性等を確認した。	公共施設整備等の検討にあたり、必要に応じて市場調査やワークショップ等を実施し、民間ニーズの把握に努めていく。	
	予定はなかったが実施した			●
	予定したが実施できなかった(理由)			
100年映画館周辺交流広場の整備及び回遊サイン計画の作成に関するワークショップの開催	予定どおり実施した	【実施頻度】 各1回 【実施時期】 「みんなの交流広場を考える」まちづくりミーティング 平成30年11月 「城下町高田のまち歩き誘導看板を考える」まちづくりミーティング 平成31年2月 【実施結果】 地域住民や団体、地元商店街関係者等が参加し、整備する広場の活用方法やサインの案内表示等について意見を出し合うことで、まちへの愛着や来訪者の消費活動の重要性等を改めて認識する機会となった。	公共施設整備等の検討にあたり、必要に応じて市場調査やワークショップ等を実施し、民間ニーズの把握に努めていく。	
	予定はなかったが実施した			●
	予定したが実施できなかった(理由)			
事業の取組効果等を検証する民間アンケートの実施	予定どおり実施した	【実施頻度】 1回 【実施時期】 令和2年7月～8月 【実施結果】 地元町内会を含む20の民間団体等から事業効果の発現状況についてアンケート形式で意見を聞いたことにより、まちづくりに対する市民の意識変化を割合として確認することができた。	公共施設整備等の検討にあたり、必要に応じて市場調査やワークショップ等を実施し、民間ニーズの把握に努めていく。	
	予定はなかったが実施した			●
	予定したが実施できなかった(理由)			
事業の取組効果等を検証する民間ヒアリングの実施	予定どおり実施した	【実施頻度】 20回 【実施時期】 令和2年7月～8月 【実施結果】 地元町内会を含む20の民間団体等から事業効果の発現状況について直接意見を聞いたことにより、まちづくりに対する市民の意識変化を定性的に確認することができた。	公共施設整備等の検討にあたり、必要に応じて市場調査やワークショップ等を実施し、民間ニーズの把握に努めていく。	
	予定はなかったが実施した			●
	予定したが実施できなかった(理由)			

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等	
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名・組織の概要		
「城下町高田まちなえと」の連携強化	予定どおり実施した	組織の定期的な情報交換の場に参加し、団体間の連携を促進した。	【組織名】 城下町高田まちなえと 【組織の概要】 高田で活動する20を超える民間団体の連携を促進するネットワーク組織	市民がまちづくりに参加しやすい環境整備を進めるとともに、市民が相談しやすい行政組織となるように努めていく。	
	予定はなかったが実施した				●
	予定したが実施できなかった(理由)				
リノベーションまちづくり団体の組成	予定どおり実施した	高田においてリノベーションまちづくりを推進する団体の発足支援	【組織名】 Kinaiya 【組織の概要】 高田で活動する若手人材によるリノベーションまちづくりを推進する団体	市民がまちづくりに参加しやすい環境整備を進めるとともに、市民が相談しやすい行政組織となるように努めていく。	
	予定はなかったが実施した				●
	予定したが実施できなかった(理由)				

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
事後評価庁内検討会議	担当職員 (都市整備課、文化振興課、施設経営管理室、産業政策課、商業・中心市街地活性化推進室、観光交流推進課、建築住宅課、企画政策課)	第1回:令和2年8月17日 第2回:令和2年8月28日 第3回:令和2年9月16日	企画政策部 企画政策課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種類別		指標1	指標2	その他の数値指標1	その他の数値指標2				
指標名		高田区の人口の社会減の解消数	新たに入居した空き家、空き店舗の数	高田区の世帯数	高田小町の一時利用者数				
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	【公園】高田公園	○	高田公園整備事業における広場・内堀・園路等の整備や旧今井染物屋体験・交流拠点整備事業の推進など、日常の憩いやコミュニケーションの場としての住環境の充実に資する取組を行うとともに、100年映画館周辺交流広場の整備や旧師団長官舎改修事業の推進、リノベーションまちづくり事業など、城下町の歴史・文化をいかした取組の積極的な情報発信などを行うことで、市内外へまちの魅力のPRを図ったことなどが、目標値の達成に作用したものと考えられる。	○	高田区の人口は社会減の傾向にある中、世帯数は多少の増減はあるもののほぼ横ばいで推移しており、本事業実施以前の平成27年度と比較すると、世帯数は増加している。居住地として一定程度選択されていることが考えられ、事業の効果が発現していると言える。	○	まち歩き拠点エリアにある高田小町の一時利用者数(※)が増加傾向にある。高田小町周辺のエリアとしての魅力が向上していると考えられ、事業の効果が発現していると言える。 ※貸館利用者を除いた来館者数		
	【地域生活基盤施設】広場(100年映画館周辺交流広場)	○		○		○			
	【地域生活基盤施設】情報板(回遊サイン整備)	-		○		-		○	
	【既存建造物活用事業】高次都市施設(旧今井染物屋)	○		○		○		○	
	【既存建造物活用事業】高次都市施設(町家交流館高田小町)	○		○		○		○	
提案事業	事業効果分析調査	-	-	-	-	-			
	日本三大夜桜桜守育成事業	○	○	○	○	○			
関連事業	回遊サイン計画策定	-	○	-	○	○			
	リノベーションまちづくり事業	○	◎	○	○	○			
	高田駅南駐車場開発事業スキーム検討	-	-	-	-	-			
	100年映画館のあるまち誘客・回遊強化事業	○	○	○	○	○			
	上越市百年料亭のあるまち誘客・回遊強化事業補助	○	○	○	○	○			
	ビジネスタウン推進事業	○	◎	○	○	-			
	まちなか居住推進事業	○	○	○	○	-			
旧師団長官舎改修事業	○	○	○	○	○				

※指標改善への貢献度
 ◎: 事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
 ○: 事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
 △: 事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
 -: 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	・日常の憩いやコミュニケーションの場としての施設整備など、住環境の魅力向上を図ったことから、今後は、整備した都市機能をはじめ、町家の活用などを市内外へ積極的にPRするとともに、町内会をはじめとした住民と連携した街なか居住をさらに促進していく。	・空き家・空き店舗への新たな入居が生まれていることから、今後は空き家活用の事例やまちの賑わいの良い変化を積極的に情報発信することで、空き家のさらなる利活用の促進を図っていく。	・日常の憩いやコミュニケーションの場としての施設整備など、住環境の魅力向上を図ったことから、今後は、整備した都市機能をはじめ、町家の活用などを市内外へ積極的にPRするとともに、町内会をはじめとした住民と連携した街なか居住をさらに促進していく。	・高田小町周辺のまち歩きの拠点エリアの施設整備やソフト事業の展開により、当エリアの目的地としての価値向上が図られたことから、今後は、来訪者の回遊による滞在時間の増加に向けて、街なかの他エリアとの連携を促進していく。
今後の活用	・日常の憩いやコミュニケーションの場としての施設整備など、住環境の魅力向上を図ったことから、今後は、整備した都市機能をはじめ、町家の活用などを市内外へ積極的にPRするとともに、町内会をはじめとした住民と連携した街なか居住をさらに促進していく。	・空き家・空き店舗への新たな入居が生まれていることから、今後は空き家活用の事例やまちの賑わいの良い変化を積極的に情報発信することで、空き家のさらなる利活用の促進を図っていく。	・日常の憩いやコミュニケーションの場としての施設整備など、住環境の魅力向上を図ったことから、今後は、整備した都市機能をはじめ、町家の活用などを市内外へ積極的にPRするとともに、町内会をはじめとした住民と連携した街なか居住をさらに促進していく。	・高田小町周辺のまち歩きの拠点エリアの施設整備やソフト事業の展開により、当エリアの目的地としての価値向上が図られたことから、今後は、来訪者の回遊による滞在時間の増加に向けて、街なかの他エリアとの連携を促進していく。

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種類		指標3														
指標名		高田区の街なかの観光客入込数														
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	【公園】高田公園	△	回遊サイン計画の策定及び回遊サイン整備事業の推進など、来訪者の街なか回遊と消費活動の促進を図るとともに、歴史・文化の魅力発信を推進したものの、多数の観光客を見込んでいた屋外の大規模集客イベントが台風等の影響により見込んでいた入込数を下回ったことなどから、目標値を下回った。	Ⅲ												
	【地域生活基盤施設】広場(100年映画館周辺交流広場)	△														
	【地域生活基盤施設】情報板(回遊サイン整備)	△														
	【既存建造物活用事業】高次都市施設(旧今井染物屋)	△														
	【既存建造物活用事業】高次都市施設(町家交流館高田小町)	△														
提案事業	事業効果分析調査	-														
	日本三大夜桜桜守育成事業	△														
関連事業	回遊サイン計画策定	△														
	リノベーションまちづくり事業	△														
	高田駅南駐車場開発事業スキーム検討	-														
	100年映画館のあるまち誘客・回遊強化事業	△														
	上越市百年料亭のあるまち誘客・回遊強化事業補助	△														
	ビジネスタウン推進事業	-														
	まちなか居住推進事業	-														
	旧師団長官舎改修事業	△														

※目標未達成への影響度
 ××：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
 ×：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
 △：数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
 -：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類
 分類Ⅰ：内的な要因で、予見が可能な要因。
 分類Ⅱ：外的な要因で、予見が可能な要因。
 分類Ⅲ：外的な要因で、予見が不可能な要因。
 分類Ⅳ：内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	天候等に左右される大規模イベントによる集客とは別に、日常的な集客につながる取組を促進する。 ・民間団体主体によるまち歩きイベントの取組促進 ・まち歩きのおすすめスポットを紹介するガイドブックの活用による街なか回遊促進 ・地域おこし協力隊の導入による高田の地域文化の発信 ・高田城址公園のイベントシーズンに併せた町家見学への回遊促進 ・本事業により整備した各種の歴史・文化的なコンテンツを組み込んだツアー企画の旅行会社への売り込み ・レストランとして活用される旧師団長官舎のPR 等
------------------	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
事後評価庁内検討会議	担当職員 (都市整備課、文化振興課、施設経営管理室、産業政策課、商業・中心市街地活性化推進室、観光交流推進課、建築住宅課、企画政策課)	第1回:令和2年8月17日 第2回:令和2年8月28日 第3回:令和2年9月16日	企画政策部 企画政策課

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
①人口流出による空き家・空き店舗増加の抑制 当地区は、道路幅員の狭さや、間口が狭い町家の敷地形状等、歴史的市街地の特性がマイナス要因となり、人口流出や店舗の閉鎖、空き家問題などが深刻化している。	リノベーションまちづくり事業において町家を魅力の一つと捉え、空き店舗の解消に向けた取組を行ったほか、100年映画館周辺交流広場の整備や百年料亭をいかした誘客・回遊の促進、旧井染物屋体験・交流拠点整備事業の推進など、歴史的市街地であるゆえの資産を活用したまちの魅力向上の取組が、当地区の人口の社会減の抑制や空き家・空き店舗の利活用につながっている。	数値目標の達成状況の分析経過から、当地区の人口の社会減は、若者世代の市外転出が大きな要因の一つであることが分かり、これは当市全体の人口減少の要因と重なっている。今後は多様な世代におけるまちへの理解や愛着の向上を図り、若者世代の転出を抑制することが課題である。	
②都市機能の集積と歴史・文化をいかしたまちの魅力向上 郊外での商業開発やライフスタイルの変化を背景として、市民が就業・買物・余暇などを目的として高田市街地に来訪する機会が減少しており、時代に合った都市機能の集積や、歴史・文化をいかした街の魅力の向上が必要となっている。	リノベーションまちづくり事業や旧師団長官舎改修事業の推進、100年映画館及び百年料亭をいかした誘客・回遊強化の取組など、城下町に古くからある建築物を活用することによる文化施設や商業施設などの都市機能の集積を図ったほか、ビジネスタウン推進事業による新たな雇用の創出に向けた取組や、高田公園整備事業や100年映画館周辺交流広場整備事業による充実した余暇を過ごすための環境整備など、歴史・文化をいかしたまちの魅力向上を図った。	-	
③資源をいかした経済効果を伴う観光産業の強化 資源の豊富さに比較して、城下町としての全国的な知名度は低く、来訪者の市街地一帯への回遊や日常的な消費活動などによる経済効果が少なく観光産業が根付いていない。	100年映画館及び百年料亭をいかした誘客・回遊強化の取組やリノベーションまちづくり事業(飲食店等の紹介)、旧師団長官舎改修事業(民間レストランとしての活用)、100年映画館周辺交流広場整備事業(消費を伴うイベントの会場整備)の推進により、歴史的建築物や町家等の歴史的・文化的資産を活用し、城下町の魅力向上に取り組むことで、来訪者の増加を図るとともに、消費機会の拡大を図った。また、回遊サイン計画の策定や回遊サインの整備において、まち歩きのマイルートに商店街を組み込むなど消費を促す仕組みを取り入れることにより、街なか回遊と消費活動の促進を図ることができた。	-	
④日常的な賑わいの定着 高田城百万人観覧会等のイベント開催時には、市内外から多くの来訪者により賑わいが見られるものの、日常的な賑わいが乏しい。	城下町の歴史・文化をいかした施設整備や関連するソフト事業を集中的に展開することにより、高田の街なかのエリアとしての魅力向上と情報発信を図ることができ、街なかの日常的な来訪者の増加につながっている。	市民が主体となり、今後も継続的にまちの魅力向上を図っていくためには、まちづくり団体の活動の継続や地域コミュニティの維持、次世代のまちの担い手の発掘・育成が課題である。	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
A欄 効果を持続させるため に行う方策	街なか居住の推進 (人口流出による空き家・空き店舗増加の抑制、都市機能の集積と歴史・文化をいかしたまちの魅力向上)	[良好な住環境の整備] ・狭隘道路の改善等、良好な住環境の整備に向けた事業化について検討する。 [若者世代の住みやすさ向上] ・数軒の若者世帯が同時期に移り住めるような規模の一体的な宅地整備等、転入世帯が既存コミュニティに入るときのハードルを下げ、新たな暮らしを始めやすくする住環境を整備する。 [町家活用の促進] ・町家を身近な住まいとして受け入れられる取組等、歴史的な街並みをいかした住環境の整備を促進する。 [土地の高度利用の促進] ・町家活用等の景観に配慮した、マンション建設等の土地の高度利用を促進する。	狭隘道路の改善等の道路整備 間口の狭い土地の一体利用促進 住宅地の公園整備、共同駐車場整備 街なか居住補助 町家お試し居住 町家活用の情報発信 宅地開発補助 不動産コーディネート
	交流人口の拡大 (資源をいかした経済効果を伴う観光産業の強化、日常的な賑わいの定着)	[交流拠点施設の活用促進] ・高田城址公園や高田小町周辺の交流施設等の活用を促進するとともに、良好な環境を維持することで、まちの魅力を向上させる。 [集客力と回遊性の向上] ・歴史・文化資産の魅力の深掘り、回遊ルートや街なかの移動手段の検討、情報発信等、商店街等における来訪者の消費活動の促進に向けた集客力と回遊性の向上に取り組む。 [域内交流の促進] ・市民の日常の買い物の場としての商店街の形成、市内各地から高田へのアクセスの向上等、市民を対象とした域内交流の促進に取り組む。	高田城址公園整備事業 無電柱化 市内回遊観光モデルコースの提案 レンタサイクル ビジネスタウン推進事業 SNSを活用したフォトコンテスト

	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
B欄 改善策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	地域愛着の醸成	[市民のまちへの愛着向上] ・市民を対象とした域内交流の促進に取り組み、高田区と市内各地の住民双方の交流とまちへの理解を深める。 ・まちの魅力の見える化や情報発信を促進する。 ・多様な世代が地域固有の魅力を知ること、まちへの愛着を高める機会を創出する。	子ども向けの高田紹介冊子の作成 高校生が自由に集える場づくり 桜プロジェクトJの取組促進 SNSを活用したフォトコンテスト
	人・組織の活性化の促進	[まちづくり団体の連携促進] ・数多く存在するまちづくり団体等の連携を促進する。 [若手人材の発掘・育成] ・若者がまちに関わる取組を推進する。 [多様なコミュニティの醸成] ・多様な世代、多様な地域のつながりづくりを促進する。	多団体相互連携事業の検討 若手人材発掘支援の検討

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

● 交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
● 事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
● 数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
● 数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
● 残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

—

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
 ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値			目標達成度	1年以内の達成見込みの有無		フォローアップ計画			
			年度	年度	年度	年度	確定	見込み	数値		あり	なし	予定時期	計測方法	その他特記事項	
指標1	高田区の人口の社会減の解消数	人/年	0	H27	48	R2	確定	●	244	○	あり	-				
							見込み				なし	-				
指標2	新たに入居した空き家、空き店舗の数	件/年	0	H27	10	R2	確定	●	13	○	あり	-				
							見込み				なし	-				
指標3	高田区の街なかの観光客入込数	人/年	228,971	H27	428,200	R2	確定	●	242,103	×	あり	-			新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、各種イベントの実施方法や人の動きに変化が起きており、過去との比較において数値の減少が予測される。コロナ禍の影響の継続が見込まれる来年度以降の数値と、コロナ禍の影響を考慮していない目標値や過去の実績値との比較は、事業効果の正確な比較とはならず、また、コロナ禍の影響を排除した予測も困難であることから、来年度以降のフォローアップを目的とした計測は行わない。	
							見込み				なし	●				
その他の数値指標1	高田区の世帯数	世帯/年	12,815	H27	/		確定	●	12,848							
その他の数値指標2	高田小町の一時利用者数	人/年	8,895	H27	/		確定	●	13,859							
							見込み									
その他の数値指標3					/		確定									
							見込み									

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	・高田公園整備事業や100年映画館周辺交流広場整備事業、旧今井染物屋体験・交流拠点整備事業の推進など、日常の賑わい創出を図るとともに、住環境の向上に資する施設整備をソフト事業と一体的に推進することにより、まちのさらなる魅力向上を図り、人口の社会減の抑制につなげることができた。	・事業効果の拡大と継続を図ることができることから、施設整備だけでなく、ソフト事業との連携により事業を推進していくことが重要である。
	うまくいかなかった点	—	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	—	・天候等の外的要因の影響を受けにくい、安定した事業成果の計測が可能な数値目標の設定を検討する必要がある。
	うまくいかなかった点	・交流人口の増加を計る指標として観光施設及び観光イベントの観光客入込数を用いたが、目標値の割合を大きく占める屋外の大規模集客イベントが台風等の影響を受けたことから、本指標を用いた成果の把握が困難となった。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	・交流広場の整備やサイン計画の策定の過程で、地域住民や団体、地元商店街等が参加するワークショップを開催し、施設の活用アイデア等を検討したことにより、市民のまちづくりに対する意識向上と、市民にとって愛着のある施設整備につながった。また、令和2年7～8月に、地元町内会を含む20の民間団体等に対して事業効果等を検証する民間アンケート及びヒアリング(設問数:21)を実施したことにより、事業効果をより具体的に確認することができ、今後のまちづくり方策への反映が可能となった。	・住民参加は、円滑な事業推進のみならず、住民のまちづくりに対する意識の醸成と、事業完了後の継続的な施設活用や維持管理等に効果的であり、今後も市民自らが積極的にまちづくり活動に参加できる環境を整備していくことが重要である。
	うまくいかなかった点	—	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	・市議会総務常任委員会(平成30年9月議会、令和元年9月議会、令和2年9月議会)において、数値目標に対する進捗状況と成果を示し、意見を聞くことにより、事業の実施方法等の再検証を行うなど、PDCAによる事業推進を行った。	・交付期間中の数値目標に対する進捗状況の確認は、事業の実施方法等の検証を行う上で有効であることから、取り入れていくことが重要である。
	うまくいかなかった点	—	
その他	うまくいった点	・歴史的建築物(旧今井染物屋及び旧師団長官舎)の活用方法の検討にあたり、サウンディング型市場調査を実施することで、民間事業者等との対話により市場ニーズや活用アイデア等を調査し、事業の実現可能性等を確認することができた。 ・城下町の歴史・文化をいかした街なか回遊観光に向けて、平成30年度から庁内の担当部署が集まるタスクフォースを月2回程度開催し、本事業で整備する施設を含めた歴史的建築物の整備等に関する課題の抽出及び解決方法の検討、整備後の利活用・運営方策の検討、回遊サイン計画に係る街なか回遊ルート等の検討等を行ったことにより、庁内の円滑な連携を図ることができた。	・市場ニーズの調査による事業実現性の確認を経ることにより、さらなる事業効果の発現が期待できることから、市場調査を取り入れていくことが重要である。 ・引き続き担当部署で情報共有を密にし、今後のまちづくりの取組にいかしていくことが重要である。
	うまくいかなかった点	—	

添付様式6—参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

○都市再生整備計画事業の活用予定

本事業の検証を踏まえ、今後同地域における計画策定を予定している(令和4年度開始予定)。

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市ホームページに掲載	令和2年12月8日(火) ～令和2年12月22日(火)	同左	企画政策課への郵送、FAX、電子メール、企画政策課窓口での意見書の提出	企画政策部 企画政策課
広報掲載・回覧・個別配布	市の広報に、公表を実施する旨を掲載	広報上越12月号	—		
説明会・ワークショップ	—	—	—		
その他	企画政策課窓口で閲覧	令和2年12月8日(火) ～令和2年12月22日(火)	同左		

住民の意見	なし				
-------	----	--	--	--	--

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	志村 喬:上越教育大学教授	令和3年2月2日	企画政策部 企画政策課	上越市都市再生整備計画評価委員会設置要綱	—
その他の委員	村中 祐治:国土交通省北陸地方整備局 高田河川国道事務所 調査第二課長 新保 良勝:新潟県上越地域振興局 地域整備部 計画調整課長 板垣 朗:上越商工会議所 理事・事務局長 大島 喜七郎:高田地区町内会長協議会副会長				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	方法書に従って事後評価が適正に実施されたことが確認された。
	成果の評価	特になし
	実施過程の評価	特になし
	効果発現要因の整理	特になし
	事後評価原案の公表の妥当性	特になし
	その他	特になし
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	事後評価の手続きの進め方が妥当であることが確認された。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・若者世代の街なか居住を推進するために「転入世帯が既存コミュニティに入るときハードルを下げる」という考え方が、今後の展開に向けて大変良いという意見があった。 ・地域愛着の醸成に向けて、これからの世代を担う子どもたちに愛着を持ってもらう事業が想定されており、とても大事なことだと考えるため、今後も検討してもらいたいという意見があった。
	フォローアップ	特になし
	その他	特になし
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	今後のまちづくり方策が妥当であることが確認された。
その他	特になし	